

戦国ダンシ

マンガで読む

秀吉 天下統一最後の相手「九戸政実」の熱き人生の物語

九戸政実物語

くわんてんがたり

キャラクター原案：緋賀ゆかり
作 画：五穀豊穰
シナリオ：アドミクス





幼き頃の政実

政実!

なんで
かばってんだよ

何も知らずに
ここで遊んでた
私らが

私らが
悪いんです



おい
何をしとる

こらー!

和尚だ!

逃げろー



政実

また無茶な
喧嘩をしておって



わかっておる



長興寺
薩天和尚

しかし...



いいやお主らは
悪くない!

こいつらが
数と力を頼りに
好き勝手してる
だけだ!



生意気なー
政実ええ!



弱い者いじめなど
言語道断!

和尚!

私が立たずして
誰が彼らを
まもりましょう

困ったやつ
じゃのう

そんな
政実



長旅で
皆疲れきっておる

今日は十分に休息し
しかと鋭気を養っておけ

ありがたき
お言葉…



明日はまず歩兵
を先行させよ

敵を十分に
引きつけたら

後陣から
騎馬兵を
放ち敵の
退路を断て



一気に形勢を
決めるのですな

九戸党の
意地

ああ！

しかと相手に
見せ付けて
やるぞ！



鍛錬を重ね

次第に武士としての
頭角を現していく



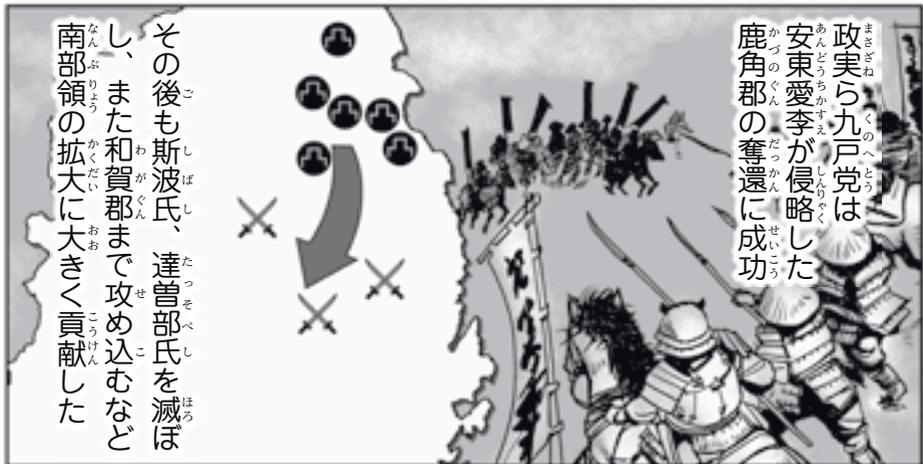
政実の名を
世に知ら
しめたのは

永禄12年
(一五八九年)
安東氏との
戦いであった



…政実様
このまま
一気に攻めまするか

皆の者止まれ！



政美ら九戸党は安東愛李が侵略した鹿角郡の奪還に成功

その後も斯波氏、達磨部氏を滅ぼし、また和賀郡まで攻め込むなど南部領の拡大に大きく貢献した



なにやつ!

殿をお守りしろー

うわー!

殿!



次第に信直を疎んじるようになった



しかしその後晴政に男子の晴継が誕生



一方南部家24代当主の晴政には男子がなかったため

養子の信直を後継者として指名していた

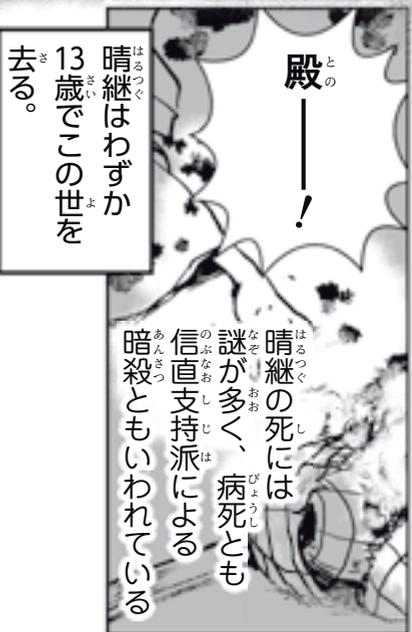


そして事件は天正10年(二五八二年)晴政の病死により勃発する...



若き晴継様に手を掛けるとは

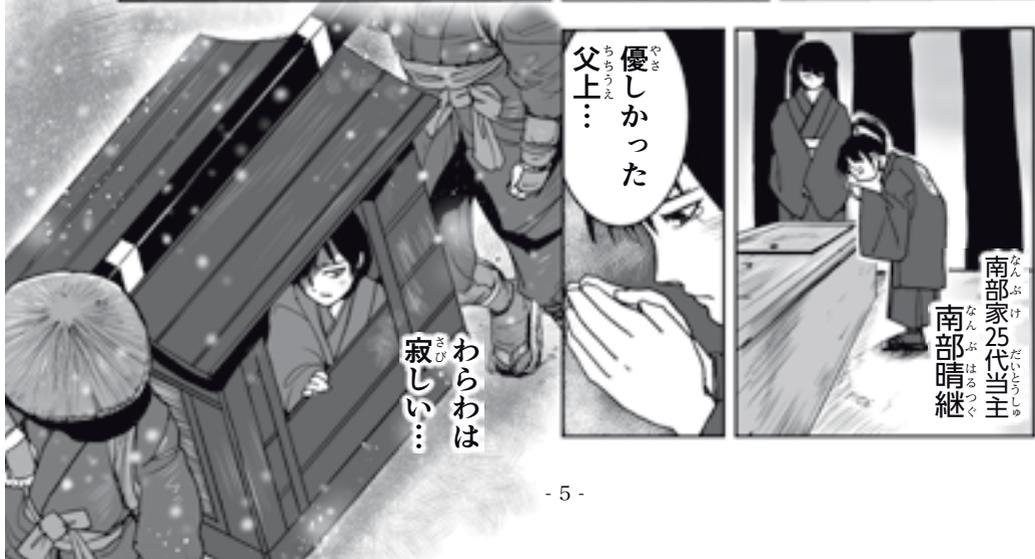
許せん...



殿——!

晴継はわずか13歳でこの世を去る。

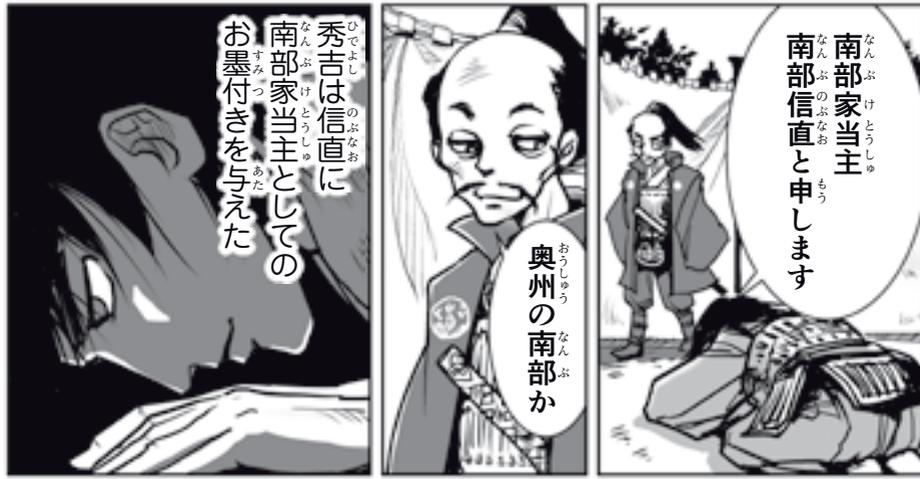
晴継の死には謎が多く、病死とも信直支持派による暗殺ともいわれている



優しかった父上...

わらわは寂しい...

南部家25代当主 南部晴継



南部家当主
南部信直と申します

奥州の南部か

秀吉は信直に
南部家当主としての
お墨付きを与えた



関東を制圧した秀吉は
検地の実施などを
通じて奥州制圧の
動きを強めていく

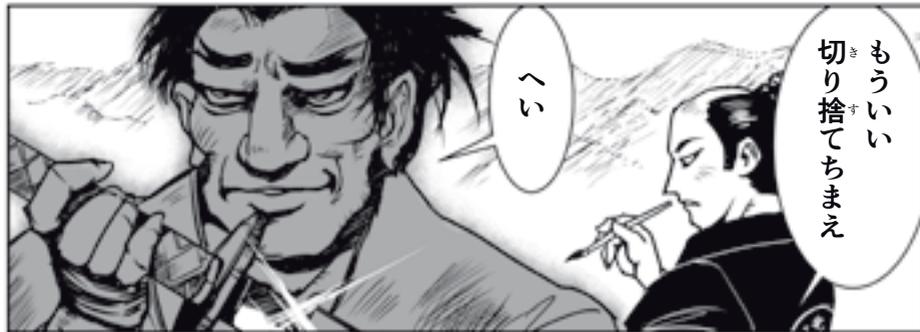
今から
こちら全部
秀吉様の
土地だ

きっちり測って
きっちり絞り
取れよー

お待ち
ください!

ご先祖様から
受け継いだ
大事な田んぼで
勝手しないで
ください

さつきから
邪魔だ!



もういい
切り捨てちまえ

へい

※検地…年貢高・諸役などを算定するために農民の田畑などを測量・調査すること



急遽次期後継者を
決める重臣会議が
三戸城で
行われたが
政実はこの席に
招かれなかった

南部信直

晴継様がお生
まれになる前
に先代の晴政
様は信直様を
後継者として
指名なさって
いた

信直の側近
北信愛

ここは信直様で
異論ござらぬな

いや何を申すか!
政実様こそ適任

ぬうう…
黙れーっ

第26代当主は
信直に決定

小田原城

時は流れ、天正18年(一五九〇年)
豊臣秀吉の大軍の前に
小田原城は陥落した

ふん
降伏しおったか
北条どもめ

あとは奥州※を
抑えるのみ

豊臣秀吉

天下統一も
目前じゃ

秀吉様
南部家当主が
面会を望んで
おります

ん?

※奥州…現在の東北地方(福島・宮城・岩手・青森の4県と秋田県の一部)

守り続けた南部を三分する争いは
本意ではなかったが、
地方の民を蹂躪する豊臣秀吉と
秀吉に服従する信直に耐えかねた
政実 は戦を決意する

皆の者
戦の用意じゃ

よし



九戸城を
包囲するに至った



こうなったら

秀吉様に援軍を
頼む他あるまい

※蹂躪…暴力や強権などをもって他を侵害すること



葛西、大崎、和賀、
稗貫地方から
敗戦の将兵が
続々と政実を頼りに
九戸城に集まって
きていた

しかし
秀吉の強引な奥州制圧に
各地で反乱が勃発



政実殿!

政実殿!



政実殿!

中央の者どもに
一矢報いて
くださいーっ!

このまま
泣き寝入りは
我慢がならねえ

ほう

このとき

九戸城に集結した

討伐軍は

実に6万5千人の兵

一方
政実側は
わずか5千人の
兵であった

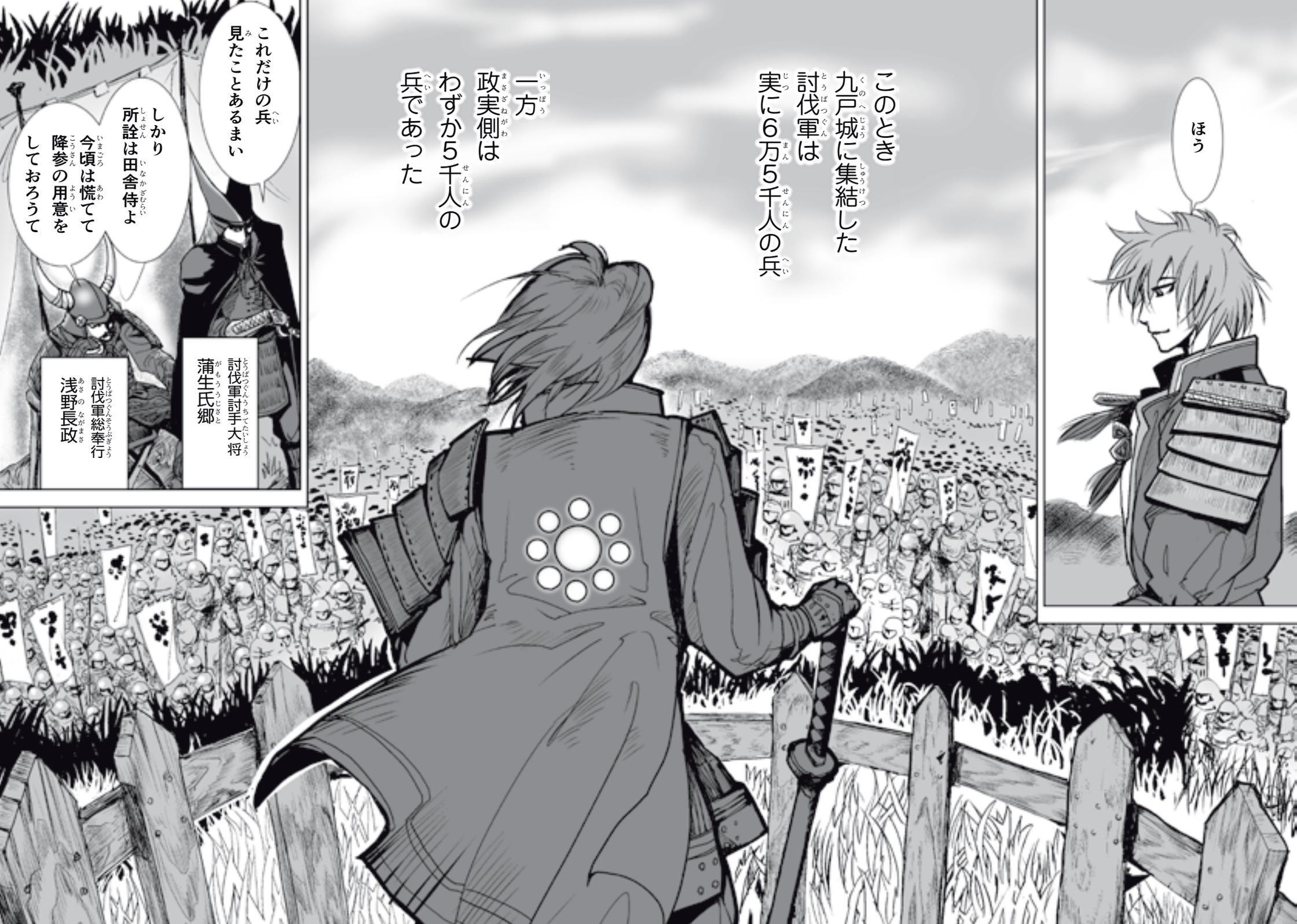
これだけの兵
見たことあるまい

しかり
所詮は田舎侍よ

今頃は慌てて
降参の用意を
しておろうて

討伐軍討手大将
蒲生氏郷

討伐軍総奉行
浅野長政





なにー！

うわー！



上方武士よ
我らが
奥州武士の
心意気



この軍勢で城を
落とせぬと
あつては秀吉様に
申し訳が
立たぬ…

「」までのつわものが
奥州の地に「」とは…



討伐軍は九戸城の地の利と
政実の卓越した策の前に
ぐつしても城を落とせ
なかつた

しかと見よ！



しかし
数日経つても

美しいものだ

政実
動かなかつた



我らと戦を
する気か
政実ーっ！



ええい！
総攻撃じゃーっ！





策はあるのか
蒲生殿

蒲生氏郷

浅野長政

こうなっては
策を弄し
絡め取るしか
なからうかと

業を煮やした討伐軍は
偽りの和議を
九戸氏の菩提寺である
長興寺住職・薩天に託す
という方法に出た



和尚殿!

久しぶり
ではないか



ああ

ほんにのう



政実よ

そなたの力は
十分示した
もう戦は
やめにせんか



和尚
勝っておるのに
白旗を上げるのは
合点がいきませぬ

実はな
お主が
投降すれば
他の者の命は
助けてやると
向こうは
言うておる



左様でしたか

もともと
わたくしが
始めた戦

皆の命を救える
とあらば

勇んでこの首
差し上げよう
ではないか

ああ…わしはわかつての
おまえの戦いは
いつだって
誰かを助けるためじゃ





皆みな
安堵しておる
ことだろうか



討伐軍の謀略によつて政実は、他の武將らと共に三ノ迫(宮城県栗原市)まで連れて行かれ、その三日後に全員が斬首された
ここに秀吉の天下統一が果たされた



言い伝えては、三ノ迫で斬首された政実の首を家臣が密かに地元まで持ち帰り
九戸神社近くの山中に埋めたと言われている

私欲に走らず
奥州の民のために生きた男、政実

誰もが秀吉に流れていく戦乱の世で二人
敢然と立ち向かった政実の心は今もなお
脈々と私たちの中で生き続けている



すまぬ政実

お主こそ
武士の鑑じゃ

幼き頃から
立派な武士
じゃった



薩天和尚の言を受け入れ
政実は7人の武將を連れ
討伐軍に投降した

死に装束を
身にまといながら



今頃は戦が終つて



城内の者を
撫で斬りにした



その後
討伐軍は城内に
なだれ込み

三戸城 (青森県三戸町)

南部家 24 代当主・南部晴政が築城。南部氏宗家発祥の城と呼ばれる。現在、城跡は城山公園として整備され、城門と天守閣が復元されているほか、当時の石垣、土塁が残っている。



九戸城跡 (岩手県二戸市)

馬淵川、猫淵川、白鳥川に三方を囲まれた、九戸氏が居城としていた平山城。豊臣秀吉の奥州再仕置により落城した後、近世城郭へと改修され、福岡城と名を改め、福岡城と名を改め、南部氏の本城となる。本丸に残る当時の石垣は東北最古級。



長興寺 (岩手県九戸村)

永正元年(1504年)開山の古刹で、九戸氏代々の菩提寺として知られる。境内にある大イチョウは、政実が出陣の時に手植えたものと伝えられる。



政実公首塚 (岩手県九戸村)

三ノ迫(宮城県栗原市)で斬首された政実の首級を家臣が密かに持ち帰り、鎮めたと伝えられる場所。



政実公斬首の地 (宮城県栗原市)

連行された政実が処刑された場所。首級を洗ったとされる清めの池や、遺骸を埋めたとされる神社が残っている。



長興寺
薩天和尚

九戸政実



兵力
五千

VS

中央軍



蒲生氏郷
討手大將

浅野長政
総奉行

南部本家



北信愛
家臣

当主
南部信直

連合

兵力
六万五千

豊臣秀吉



マンガに登場した
主な場所

おも
主な登場人物



このマンガを読んで“九戸政実”についてもっと知りたいと思った方は、ぜひ九戸城跡へお越しください。ガイドがご案内します。

- ガイド 九戸城ボランティアガイドの会
- 期 間 4月中旬から11月末まで
- 時 間 午前9時から午後4時までの間
- 連絡先 二戸市観光協会

TEL：0195-23-3641 FAX：0195-23-2343

※ガイドを希望される方は、一週間前までに事前予約が必要です。

編集：九戸政実プロジェクト突撃隊

発行：平成26年3月31日

お問い合わせ／岩手県北広域振興局二戸地域振興センター

〒028-6103 岩手県二戸市石切所字荷渡6-3

TEL：0195-23-9201

本書の無断転載、複製、複写（コピー）、翻訳を禁じます。
 本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、
 個人や家庭内での利用であっても、著作権法上、認められていません。

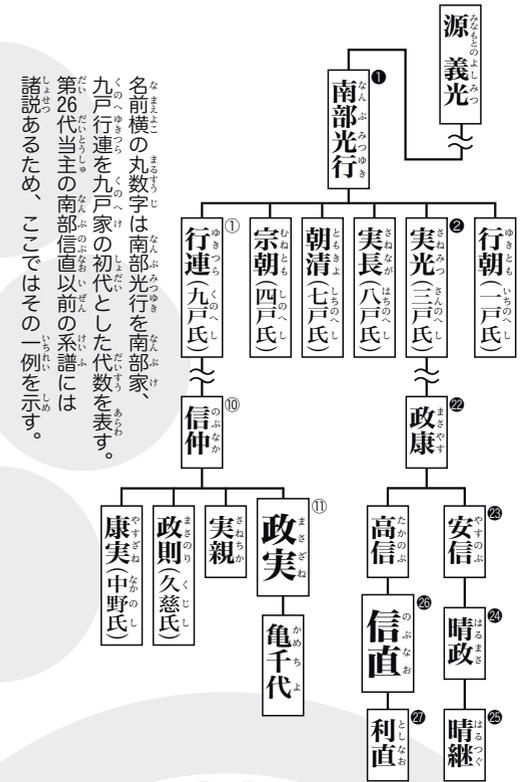
このマンガは史実に基づいたフィクションであり、事実とは異なる箇所があります。

九戸氏は、南部氏の始祖光行の六男・行連を祖先とする南部一族と伝えられ、政実も九戸氏初代行連から数えて11代目に当たると言われています。

政実には三人の弟がいましたが、九戸城落城の際、一族は斬殺され九戸氏は滅亡しました。また、政実の息子・亀千代は落城の際、青森県田子町まで逃れたものの追手に捕まり斬首されたとも、

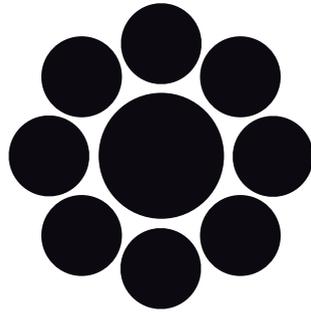
江戸へ逃げ落ちて生き延びたとも言われています。

一方、政実と戦った信直は、南部家22代当主・政康の次男・石川高信の庶長子として生まれました。従兄である第24代当主・晴政に男子が無かったため、その長女の婿となり養嗣子として三戸城に迎えられ、晴政の死後、第26代当主の座に就きました。



年号(西暦)	できごと
天文5年(一五三六年)	政実誕生。
天文10年(一五八二年)	晴政死去。長男晴継が家督を継ぐも急死。信直が南部家当主に就く。
天正18年(一五九〇年)	信直、小田原参陣。秀吉から南部の所領を認められる。秀吉の奥州仕置。
天正19年(一五九一年)	3月 九戸氏と南部氏との本格的な戦闘開始(九戸氏優勢)。 4月 信直、秀吉に援軍を要請。 7月24日 討伐軍、会津を出発。 8月24日 討伐軍、九戸城を包圍。 9月4日 政実、中央軍からの和議申入れを受け入れ投降。 9月20日 政実、豊臣秀次の命により三ノ迫で斬首。(享年56歳)

南部・九戸家略系図 九戸政実関連年表



戦国ダンシ

九戸政実物語